

浪江町（山側）葛尾村の放射線量

写真は東京新聞 6 月 12 日朝刊「こちら原発取材班」。山川剛史記者のリードから。

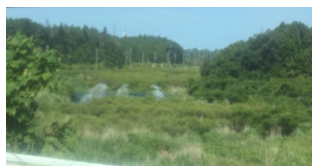
東京電力福島第一原発事故では、飯館村をはじめ北西方向が高濃度に汚染された。山間部の浪江町赤宇木（あこうぎ）や津島地区、葛尾村の北東部は事故から 8 年たった現在も、帰還困難区域とされている。

葛尾村では 2016 年 6 月に大半の地域で避難指示が解除された。村の中央を十文字に走る県道沿いに民家が多く、毎時 0.3 マイクロベルトを下回る地点がほとんどだった。0.2 マイクロシーベルトを下回る地点も多かった。

ただし、北東部に残る帰還困難区域の周辺は別だった。国道 114 号から葛尾村に通じる県道 50 号は、浪江町内は 5 マイクロシーベルト前後あり、最高値は 6.6 マイクロシーベルト。村に入った辺りで 4 マイクロシーベルト前後あり、進むにしたがって徐々に線量が下がった。許可を取り、国道 114 号北側の浪江町赤宇木のほか、津島、南津島の各地区も調べた。ほとんど手つかずの状態だけあって、国道から少し入ればすぐ 2 マイクロシーベルトを超えた。のどかな山村の風景が広がっていたが、特に赤宇木では 4 マイクロシーベルト超の地点も多く、厳しい状況を突き付けた。



この記事に注目したのは、昨年 6 月 24 日に宮本憲一先生ご夫妻やゼミ卒業生と調査に訪れ、写真のルートを通ったからだ。いわき駅に集合して、国道 6 号を北上し、福島第一原発近くを通過して浪江町役場で小休止。役場の線量計をチェックした。国道 114 号、富岡街道を真っすぐ進んだ。途中、国玉神社で地震の被害と線量計の説明を受ける。請戸川に沿って山沿いの道を行くと、写真右のように柳が生い茂っていた。ここは原発事故前は、一面が田んぼであったという。原発事故から 7 年の歳月に思いを馳せる。確か津島地区の前あたりで、引き返したと思う。この地区は今でも放射線量が高く、帰還困難区域である。



(2019 年 6 月 19 日)